

小学校第6学年道徳学習指導案

日 時 平成26年 9月10日(水)

場 所 宇城市立緑川小学校

授業者 教諭 中嶋 利彦

1 主題名

生活を見直して「1－(1) 節度ある生活態度」

資料名 「けいたい電話を持たせない」(道徳6「明日をめざして」東京書籍)

2 主題について

(1) ねらいについて

健康で安全な生活を営むためには、よりよい生活を求めて自分を振り返り、望ましい生活習慣を身につけていこうとする態度を養うことが大切である。そのためには、規則正しい生活の意義や必要性を理解し、自らを律しながら節度を守る心や態度を育むことが重要となる。

急速に発展する情報化社会に伴い、携帯電話やスマートフォンが児童の生活の中にも深く浸透し、生活に多大な影響を及ぼしている。「平成25年度熊本県公立学校心のアンケート」によると小学5年生以上の32.8%が携帯電話等を所持しており、その内、43.6%は家庭でのきまりごと(ルール)がないままに使用しているという状況にある。また、メールやインターネットは、便利な反面、依存症や陰湿ないじめ、犯罪など深刻な問題を引き起こしている。

このようなことから情報リテラシーの向上のみならず、情報モラルをしっかりと身につけていくことが求められている。

(2) 児童の実態について※アンケート項目のみ掲載

携帯電話、インターネットに関するアンケート結果は以下のとおりである。

①インターネットにつなぐことができる道具を持っていますか。

持っている：○人、持っていない：○人

(ゲーム機：○人、キッズ携帯：○人、音楽再生機：○人、タブレットPC：○人、スマートフォン：○人)

②フィルタリングはかけていますか。

かけている：○人、かけていない：○人、わからない：○人

③使い方の約束は決められていますか。

決めている：○人、決めていない：○人

(宿題をしないなら使用禁止、使用時間の制限、親の前でのみ、ダウンロード禁止ゲーム以外で使うときは知らせる 等)

④インターネットやメールをしたことがありますか。

ある：○人、ない：○人

*自分は持っていないくても、親や兄弟(姉妹)、友達のものを使っている。

⑤どんなことに使用しましたか。

調べ学習：○人、メール交換：○人、SNS：○人、動画鑑賞：○人、
ゲームや音楽鑑賞（ダウンロードなし）：○人、ゲームや音楽のダウンロード：○人

(3) 資料について

いつでもどこでも連絡を取り合ったり、知りたい情報をインターネットを通じて入手したりできる携帯電話はとても便利な道具である。しかし、健康被害、ネットいじめ、高額請求、ネット依存など携帯電話に関わる多くのトラブルがあり、小学生や中学生に携帯電話を持たせないようにしようという声があがっている。それぞれの事例をもとに携帯電話と賢く付き合っていく方法について話し合ったり、考えたりしていくのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

ア 導入部分

- ・本校での実態調査の結果と熊本県や全国での具体的な数値を提示し、興味・関心を高めるとともに所持率が増加していることを捉えさせる。
- ・所有率が増加している理由を考え、携帯電話の利便性に着目させるようにする。

イ 展開部分

- ・4つの事例を分割して提示し、「携帯電話を持たせない」という意見が出ている理由について考えさせる。
- ・「携帯電話を持たせない」という意見に対して自分はどう思うか理由を添えて発表させる。賛成派の立場に偏ってしまうときは、いずれは持つ可能性が高いことを伝える。
- ・携帯電話と賢く付き合う方法について話し合う際は、多様な意見を肯定的に受け止める。また、16人中○人は何らかの形でインターネットやメールの経験があるので、自分のこととして考えさせるようにする。

ウ 終末部分

- ・節度を守って使うととても便利な道具である事例や困ったときに相談することが大切であることが伝わるような事例を紹介する。

(5) 情報モラル教育の視点

ア 本時は、情報モラル指導モデルカリキュラムにおける分類「3. 安全への知恵」
d 3「情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる」、e 3「情報を正しく安全に利用することに努める」、f 3「安全や健康を害するような行動を抑制できる」との関連を重視して展開する。

イ 本資料は、インターネットの光と影の部分に焦点を当て、様々な負の要因から身を守るために、節度を守って生活することの大切さに気づかせるものである。「便利」と「危険」は隣り合わせであり、便利な道具として賢く使いこなすためにはどのようなことが大切になるのか考えさせたい。

(6) 人権教育の視点

ア 自分の考えを自信を持って発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他人の意見を尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

3 本時の学習

(1) 目標

携帯電話との賢い付き合い方を考えることをとおして、自分自身の生活を振り返り、決まりを守ったり、節度ある生活を心がけたりする心情や態度を育てる。

(2) 展開

| 過程 | 主な学習活動 | 主な発問や指示 (○) 等 指導上の留意点 (・) 及び評価 | 備考 |
|-----------|--|---|-------------------|
| 導入 10分 | 1 データをもとに携帯電話の 便利さについて話し合う。 ・「25.0」について考える。 ・「68.8」について考える。 | ・学級の携帯電話の所持率や「心の アンケート」における所持率の変 化等を提示し、本時の学習が身近 な問題であることを伝える。 | 大型テレ ビ パソコン |
| | けいたい電話とのかしこいつきあい方を考えよう | | |
| 展開 30分 | 2 「けいたい電話を持たせない」 を読んで話し合う。 ・4つの意見について自分の考 えを持つ。 ・賛成か反対か立場をはっきり とさせ、その理由を考える。 3 携帯電話と賢く付き合う方 法について話し合う。 ・携帯電話に危険性について考 える。 ・決まりやルールなどについて 考える。 | ○携帯電話についての意見に対し てどう思いますか。 ・専門的な用語や携帯電話やインタ ーネットに潜む危険性について は補足説明をする。 ○あなたは「携帯電話を持たせな い」という声に賛成ですか。反対 ですか。 ・必要に応じてグループによる話し 合いを行い、それぞれの意見交換 を活発にする。 ○携帯電話を便利な道具として使 うためにはどんなことが大切で すか。 ・いずれは携帯電話を持つ可能性が 高いことを伝えたり、携帯電話の 利便性を確認したりして考えを 出しやすいようにする。 | 学習シー ト |
| | | 《評価》 自分の生活を振り返り、携帯電話との賢 い付き合い方を考えている。 | |
| 終末 5分 | 4 説話を聞く。 ・保護者の思いを聞く。 | ・便利な道具として使うためには、 守らなければならないことがあ ること、困ったことがあれば大人 に相談することを自覚させる。 | 保護者の 手紙 |